

# 福祉用具専門相談員研究大会

## 6月開催、2月末まで発表事例受付中

「第3回福祉用具専門相談員研究大会」が6月16日にニッショーホール（東京都港区）で開催される。全国福祉用具専門相談員協会（ふくせん）と日本福祉用具供給協会（日福協）が共催。前回に引き続き、会場に加え、オンラインでの参加も組み合わされる。前回は会場

66人、オンライン846人の参加があり、全国の福祉用具専門相談員が学びを深めた。

第3回大会のテーマは「福祉用具の未来につながる専門性の追求」PDCASAサイクルの推進は福祉用具の適合が鍵。岩元文雄大会長は、「適時・適切な福祉用具・住宅改修サービスが選択され、変化していく『すまいと住まい方』に適合させていくことが我々、福祉用具専門相談員の使命だ」と今回のテーマに込めた思いを語っている。

当日は、①PDCASAサイクルの推進②福祉用具の安全利用に向けた取り組み③福祉用具メーカーとの連携・協働④地域、多職種連携、事業所の取り組み⑤経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）——といったテーマ別の口述発表が予定されており、2月末まで発表事例の応募をふくせんと日福協のホームページなどで受け付けている。そのほか、厚生労働省で老健局長兼課長、政策統括官（社会保障担当）、年金局長などを歴任した香取照幸氏（上智大学教授）の特別講演も行われる予定。参加申し込みは4月1日から開始予定。



開催概要（ふくせんホームページ）